

【部会の主な意見】

1. 指標の見直しや評価の考え方を整理したうえで、各施策の目的に応じた評価と取組みを継続・強化していく必要がある
2. 予防分野について、特定健診・特定保健指導を受けない層をどう動かしていくか工夫が必要
3. 連携体制に関する取組み（研修・ICT・連携ツール）は糖尿病対策の基盤として重要であり今後も重点的に強化すべき

<p>施策（取組）とアウトカムの整合性（セオリー評価）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定健診・特定保健指導については、健診受診率向上により有所見者が一時的に増加する可能性があることを踏まえ、中間アウトカム指標の評価の考え方を見直す必要がある。 ● 糖尿病性腎症重症化予防プログラムについては、重症患者の掘り起こしの影響を考慮した指標の解釈が必要。 ● トライアングル事業については、施策概念と実際の事業内容（医療機関主体）との間に齟齬があり、施策体系上の整理が必要。
<p>施策（取組）の実施状況（プロセス評価）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● トライアングル事業については、実施医療機関数が減少しており、事業単価や事務負担等の改善を検討してはどうか。 ● 糖尿病性腎症重症化予防プログラムについては圏域間のバラツキがある。 ● 研修会については、一部地域（特に離島）で実施が十分ではないことから、リモート活用等の工夫が必要。 ● おきなわ津梁ネットワークについては利活用が進んでいる。
<p>施策（取組）がアウトカムに及ぼす影響（インパクト評価）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 多くの施策において、単年度での効果判定が難しく、中長期的な視点や「経過観察」を含めた評価が必要。 ● アウトカム指標が一部悪化している施策についても、施策の効果自体を直ちに否定するものではなく、外部要因等を踏まえた慎重な解釈が必要（特定健診・保健指導、糖尿病性腎症重症化予防プログラム、トライアングル事業等）。
<p>今後の取組方針（総合評価）</p>	<p>取組みを強化すべき施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「地域連携推進事業（研修会の開催）」：リモート等を活用し、離島を含めた研修機会の拡充を図る ● 「地域医療構想を実現する医療連携機能強化事業（おきなわ津梁ネットワークの推進）」：利用医療機関・患者の更なる拡大を図り、連携体制の中核ツールとして積極的な活用を推進する。 ● 「糖尿病連携手帳の利用」：配布・周知方法や指標の見直しを行いながら、患者・医療機関間の連携ツールとして引き続き強化する。